

青山大火場所附

このかわら版は、安政6年（1859）2月21日、青山から出火して千駄谷、四谷、牛込、小石川の一带を灰燼と化した大火を報じたものです。

安政という時代の名は、時代の平穏を願って、群書治要の中の「庶民安政然後君子安位矣」からとったものだとされています。

しかし、たった7年間の安政時代は、この願いとは裏腹に、内憂外患をもたらした政治問題（日米修好条約調印、14代将軍の誕生、横浜等貿易港の開港、外国人居留地の開設等）や大きな災害等が数多く発生した時代でした。

そこで、青山の大火について述べる前に、この時代に発生した代表的な災害の概要を紹介します。

○ 安政の大地震

安政2年（1855）10月2日、江戸に発生した地震を、安政大地震と呼んでいます。この地震による余震は29日まで続き、激しい日には、日に80回もの余震があったといわれています。被害は、死者4,626人、倒壊家屋14,364戸を数え、この時の被害の様態を記した文献に安政見聞誌（全3巻）があります。

○ 安政の風水災

安政大地震による被害の復興作業が終わりに近づいた安政3年（1856）8月25日、大型台風が江戸の町を襲い、江戸の町は再び大きな被害を受け江戸市民は、自然の力の恐ろしさを身にしみて感じました。

また、この台風の最中に地震と火災が起こり、二次災害が発生しました。この時の模様等を記述したものに、安政風聞集（全3巻）があります。

○ 火災による大旋風の発生

安政5年（1858）11月15日、神田相生町から出火した火災で、神田・日本橋一带等259町が焼野原と化してしまいました。

なお、この火災の際、気象条件等から大旋風が起こり、火災は拡大し、被災者がせつかく運び出した家財道具等はことごとく吹き飛ばされ、多数の死傷者が発生しました。

○ 青山の大火

安政6年（1859）2月22日、青山から出火した火災の概要は、増訂武江年表によると、次のようです。

「安政6年2月21日、亥の刻より南風烈しかりしが22日暁弥烈しく坤方より扇き、丑の刻青山穩田芸州侯下屋敷内、松平江州侯屋敷内より出火、炎勢熾にして松平志州侯、井上河州侯下屋敷、其外諸家下屋敷数字類焼し、緑町、原宿町、久保町、……四谷大通、西は大木戸手前、東は塩町2丁目、3丁目、伝馬町2丁目迄、北側は田安侯下屋敷へ焼込、北寺町浄運寺、……牛込町2丁目、3丁目、廿人町、若松町、……西青柳町、音羽町1丁目西側迄焼亡、此所にて22日辰下刻鎮火、凡諸侯上屋敷下屋敷合廿余宇、小名は枚挙すべからず、神社3宇、寺院50余宇、町屋35町程、長凡1里8丁余、幅平均して4丁半、焼死負傷者其数を知らず」

なお、この火災から8か月後の安政6年10月17日、江戸城本丸が炎上しました。これらのことからみても、安政という時代は、大災害多発時代であったといっても過言ではないと思います。

（東京消防庁図書資料室 白井和雄）

